

宇都宮市立宝木小学校第4学年児童質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

○「1か月に、何さつくらい本を読みますか」の設問では、「11冊以上」と答えた児童が一番多く、県の平均と比べ、6ポイント上回っている。朝の読書活動によって定着が図られていることが分かる。今後も、読書活動に力を入れていきたい。

○「家で、自分で計画を立てて勉強している」の設問では、「はい」と答えた児童が県や市の平均と比べ、7～10ポイント上回っている。「家で学校のじゅ業のふく習をしている」の設問では、県や市の平均と比べ、11～15ポイント上回っている。「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」の設問は、県や市の平均と比べ、13～15ポイント上回っている。このことから、家で学習する習慣が身に付いた児童が多いことが分かる。今後も、家庭と連携を図り指導していきたい。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んでさんかしている」の設問では、「はい」と答えた児童が県や市の平均と比べ、5～8ポイント上回っている。「じゅ業では、クラスの友だちとの間で話し合う活動をよく行っている」の設問は、県や市の平均と比べ、3～6ポイント上回っている。授業で話し合い活動をさらに取り入れることで、進んで意見を述べ、考えを深められるようにしていきたい。

○「先生は学習のことについてほめてくれる」の設問では、「はい」と答えた児童が県や市の平均と比べ、4～7ポイント上回っている。「じゅ業で分らないことがあると、先生に聞くことができる」の設問でも、県や市の平均と比べ、4～7ポイント上回っている。先生に聞きやすい環境を整え、学習の理解が深まるように配慮していきたい。

○「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」の設問では、「はい」と答えた児童が県や市の平均と比べ、9～12ポイント上回っている。「家の人と意見が合わないとき、自分の話を聞いてもらえる」の設問は、県や市の平均と比べ、4～7ポイント上回り、「家の人と学習について話をしている」の設問は、県や市の平均と比べ、6～9ポイント上回っている。家庭で、自分の思ったことをしっかり聞いてもらえたり、学習に対して関心を持っていることが分かる。

○「地いきや社会で起こっている問題やできごとにかん心がある」の設問では、「はい」と答えた児童が県や市の平均と比べ、5～7ポイント上回っている。身近な出来事を話す機会を設け、より関心が持てるように働きかけていきたい。

●「できるだけ自分ひとりの力でものごとをかき決しようとしている」の設問では、「はい」と答えた児童が県や市の平均と比べ、3ポイント下回っている。「毎朝、自分で起きている」「早ね、早起きを心がけている」「学校のじゅんびは自分でしている」の設問は、県や市の平均と比べ、2ポイント下回っている。自分のことを時間内にしっかりできるように家庭と連携を図っていきたい。

●「算数の学習はすきですか」の設問では、「はい」と答えた児童が県や市の平均と比べ、2ポイント下回っている。理解が難しくなってくる時期なので、補習を取り入れて理解を深められるようにしていきたい。

●「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDなどを見たり、聞いたりしますか」の設問では、本校児童は「2時間以上3時間より少ない」の回答23.7%と一番多いが、県や市で一番多いのは「1時間以上、2時間より少ない」である。下校後の時間の使い方として、家で読書する時間や学習する時間をもう少し増やせるように呼びかけていきたい。

●「けいたい電話・スマートフォンを持っていますか」の設問では、「はい」と答えた児童が県や市の平均と比べ、2～9ポイント上回っている。「見てはいけないサイトにつながらないようになっていますか」の設問では、県や市の平均と比べ、4～9ポイント上回っているが、校内では、66.7%と全体の2/3と割合は多くない。携帯電話・スマートフォンの適切な使い方について、さらに各家庭に啓発していきたい。

